

# タウンハウス型

# デザイナーズ住宅



南仏の都市をイメージしたタウンハウス。共有スペースで住民の団らんが楽しめる（大津市追分町・ディアラ・ガーデンシティセントコート）

大津市追分町に今秋、装を纏ながで覆い、まるで「ティアラ・ガーデン」で南仏の街のようだ。タウンハウジング開発式で保育園棟も完成した。敷地面積約九千二百平方㍍で七十九戸の住宅が集積している。外

宅地は国内でも珍しい。広い屋上もあり、中身が一戸建てと変わらない。タウンに入る二ヵ所の出入り口は、インターホンで音楽が流れる。タウンハウジング開発式で保育園棟も完成した。敷地面積約九千二百平方㍍で七十九戸の住宅が集積している。外

# 町並みで家に付加価値

京滋で景観やデザインの一感覚を売り物にする建て売り住宅が相次いで登場している。住宅が一つの町を形成する「タウンハウス」型住宅や外観のコンセプトを統一した「デザイナーズ住宅」など、住宅一戸だけではなく、町並みとしての総合的な魅力を掲げているのが特長。背景には、地盤が手に入りになり、住宅に新たな付加価値を求める消費者が増えたことなどが大きいそうだ。（社会報道部・経済 仲屋聰、高野英朗）

## 設計にもレンジ 景観の一感覚 魅力

高付加価値は、いまやバブルを設置し、庭園などを共用スペースもある。三階建ての各住宅には、家庭エレベーターとマンションと違うて三

十から三十五坪程度の土地が付くため資産価値は高い。分譲価格は四千万円から五千万円台でマンションと比べるとやはり高価だ。

公開を始めてから八百

組の見学者が訪れるほど

の人気で、事業主のアル

バ（大津市）の服部勝彦

社長は、「一戸建て」と「

ショーケース」を掛け合

うる「北大路駅（北区）近くのはまちなか住宅

（コラボレーション）」だ。

敷地面積約九平方㍍がいい」と手応えを語る。

たのが、ゼロ・コ・ボレードいたオーブンハウスに

ーション（同）が手掛け、約三十組が訪れ、同社は

「北大路駅（北区）近くのはまちなか住宅

（コラボレーション）」だ。

高価格にしては関心が高い

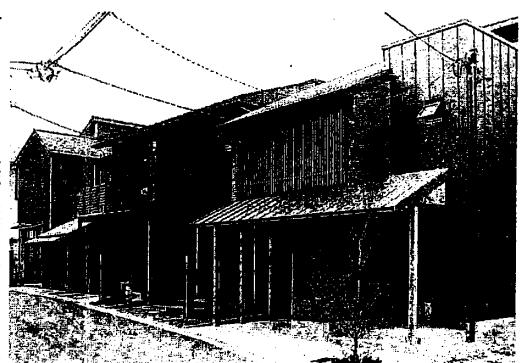
との感覚を知っていた

「コミュニケーション」

と期待を寄せた。

は名古屋市にアレンジし、交えて基本計画を議論し

た素材や色、屋根の形、



京町家  
京都の建築家が、戸と戸を隣接する新規邸宅が軒を並ぶ（京都市北区・北大路駅（北区）近くのはまちなか住宅）

地の価格は、いまやバブル期の十分の一以下にまで下落した。少子化による人口減少も間近に控え、住宅を「どんどん建てる」とんでもない時代でなくなったのは確かだ。そんななかで、町並みの統一感やコミュニティの作りやすさなど、いつた事が、住宅の新たな付加価値として浮上しつつある。

住宅は、それ一軒だけ見れば良くて、町並みと調和していないことが多い。建築家や住宅業者、行政などに対しても、新しい手法を提案したかった」と話す。

中心市街地にある住宅地の価格は、いまやバブル期の十分の一以下にまで下落した。少子化による人口減少も間近に控え、住宅を「どんどん建てる」とんでもない時代でなくなったのは確かだ。そんななかで、町並みの統一感やコミュニティの作りやすさなど、いつた事が、住宅の新たな付加価値として浮上しつつある。

くらしの  
経済